

# 苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会 第 9 回 定例委員会
日時	令和5年9月22日 自 13時00分 至 13時55分
場所	第2庁舎2階南会議室
出席委員	教育長 福原 功 委員 佐藤 郁子 委員 齋藤 智子 委員 岡田 秀樹 委員 高橋 憲司
欠席委員	
会議録署名委員	高橋 憲司 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 竹中 響紀
事務局職員	教育部長 園田 透 教育部次長 山地 吉明 教育部次長 齋藤 貴志 教育部参事 東峰 秀樹 教育部参事 桑島 久典 学校教育課 江原 倫代 総務企画課長 下濱 辰哉 総務企画課主事 竹中 響紀
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（福原教育長）・・・13時00分
2 会議録署名委員の指名（高橋憲司委員）
3 会議録の承認
（福原教育長） 第8回定例教育委員会（令和5年8月18日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
（一同「はい」の声）
-会議録どおり承認-
4 教育長の報告
（福原教育長） それでは、8月18日開催の第8回定例教育委員会以降の主な動きなどについて報告をさせていただきます。
初めに、8月23日、24日に室蘭市で開催された「令和5年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会」については皆さまお疲れ様でした。後ほど、分散会での様子などについて、各委員さんからコメントをいただきたいと思います。また、9月2日、3日に開催されたミライフェスト2023でのダンスコンテストでは佐藤委員、齋藤委員に審査員をお引き受けいただき、ありがとうございました。
次に、明日9月23日(土)から11月19日(日)の期間で、出光興産(株)北海道製油所操業50周年、苫小牧市美術博物館開館10周年を記念した特別展「出光美術館近代美術名品選 四季が彩る美の世界」が始まります。明日のオープニングセレモニー

には委員の皆様にもご案内が届いていると思いますが、ナショナルカンパニーの工場等が集積する本市ならではの企業による地域貢献としての特別展でもあります。前期と後期に分けて作品を大幅入れ替えし、展覧会を2度楽しめる企画で観覧無料となっていますので、市民はもとより市外からも多くの方々の来場があることを期待しています。

次に、第3回市議会定例会が9月7日に開会し、15日に閉会しました。22名の議員が一般質問に立ち、そのうち13名が、暑さ対策、コミュニティスクール、学力向上、GIGAスクールの課題などについて質疑を行いました。暑さ対策の質疑では、今年の夏の長期にわたる暑さ対策について、予防措置や暑さ指数による判断基準を含む熱中症対策ガイドラインの策定や、熱中症警戒アラートと暑さ指数を種別に加えた学校防災マニュアルの改定を行う考えを示したほか、次年度には暑さ指数計測機器の導入を進めることを答弁いたしました。学校防災マニュアルの一部改訂と、熱中症対策ガイドラインの策定につきましては、この後、本日の議案として説明させていただき、ご審議をお願いします。

次に、教育費の補正予算審議では、国の補助金を活用した「学校教育活動継続支援事業」として換気対策に伴う移動式クーラーを全小中学校の普通教室等600教室分の購入費と学校教育活動の継続に必要な衛生用品の購入費で合計3168万2千円の計上などについて、全会一致で可決いたしました。なお、8月の定例教育委員会で審議いただいた補正予算について、その後、移動式クーラーを購入することで内訳等が一部変更となり、後日その内容をお伝えすることとなりましたことを、ご理解願います。移動式クーラーの質疑では、購入予定機器の効果を疑問視する意見や、学校の判断で購入すべきとの意見等が出ましたが、今回の移動式クーラーの購入は、これまでに経験のない長期にわたる暑さから、子どもたちの命を守ることを最優先に、今できることとして、市教委が主体となって移動式クーラーを導入することとしたものでございます。年度内に契約し、来年の夏前には配備することになりますが、各学校において、扇風機やサーキュレーターとの併用や移動式という利点を生かした活用など、

工夫を凝らした利用を図り、効果的な利用方法を各学校で共有するとともに、検証評価を重ね、有効に活用することで理解をいただいたところでございます。また、今年の夏の長期にわたる暑さから、今議会も学校に限らず公共施設利用に対する暑さ対策などが議論されました。一部の議員や市民から、全ての学校に通常のエアコンを設置すべきとの意見がありますが、国の補助との兼ね合いで費用面に課題があり37校への設置は難しい状況から、大規模改築などの際の設置に向け考えていく意向を示しております。

次に、9月12日の議案審議で、「苫小牧市教育委員会委員の任命について」、佐藤郁子委員が令和5年10月2日をもって任期満了となるため、再び、佐藤郁子氏を任命したい提案に対し、議会の同意が得られましたことを報告いたします。佐藤委員は6期目となりますが、本市教育行政の推進に、引き続き、お力添えを賜りたく、よろしく願いいたします。

私からの報告は以上ですが、何かご質問等ございませんか。

(一同「なし」の声)

## 5 議 案

第1号 「苫小牧市学校防災マニュアル」の一部改訂について

第2号 「苫小牧市立小・中学校熱中症対策ガイドライン」の策定について

(教育部東峰参事) - 「苫小牧市学校防災マニュアル」の一部改訂および「苫小牧市立小・中学校熱中症対策ガイドライン」の策定について説明-

(福原教育長) 質疑に付します。何かございませんか。

(高橋委員) 暑さ指数の31は、気温31度という意味なのでしょうか。

(教育部東峰参事) 気温ではなく計算式で出す場合と、計測器を用いて測定する場合があります。
(福原教育長) そのために暑さ指数計を来年度導入していこうということですね。
(教育部東峰参事) はい。
(福原教育長) 他に何かございませんか。
(一同「なし」の声)
(福原教育長) 質疑がないようであれば、原案どおり決定することよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(福原教育長) それでは、議案第1号は原案どおり決定いたしました。
第3号 教育委員会職員の処分について
(福原教育長) 次に、議案第3号についてですが、人事案件でございますので、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会とし、本会議の日程の最後に審議したいと思いますが、よろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(福原教育長) それでは、議案第3号を秘密会とし、本会議の日程の最後に審議することに決定いたしました。

6 報告・協議
報告（1）勇払地区 学校規模に関する保護者アンケートについて
（総務企画課長） -勇払地区 学校規模に関する保護者アンケートについて説明-
（福原教育長） 今日、午前中に勇払小学校を見ていただいたのもありますので、委員の皆様から意見等、一通りいただきたいと思います。それでは、佐藤委員からお願いいたします。
（佐藤委員） 授業参観の後、校長先生と教頭先生とお話ししていたときに、先生からの報告の中で、家庭学習にあまり時間を割いていないことや、復習面での心配、それから不登校の数のご説明があり、その中でも私は教頭先生に、小学校のときに不登校になって、そのまま中学校に行くというところの心配があった場合に、ほかの学校に移るとい、選択肢はありますかという質問をすると、それに対し、校長先生の感覚としては、ありませんということでした。このアンケートを拝見しますと、中学は沼ノ端中学校と一緒にしてほしいという希望もありますので、今はまだ小学生ですが、今後、学校として希望を聞いて、中学校に備えていくことが必要だと思っておりました。
（福原教育長） ありがとうございます。
それでは、岡田委員お願いいたします。
（岡田委員） そうですね、勇払は地域性があり、一つのコミュニティになっているというポイントを考えると、地域の伝統的な行事などもありますので、できるだけそれを生かしていくことが一つかなと思っております。さらにもう一度、地域の皆さんからのご意見も聞いていくことになると思いますが、本物の教育を小中学校で残していくというのは、義務教育学校として残していくということも一つの選択としてある

<p>のではないかと思いますので、これからいろいろと検討していく余地はあるかなと思</p>
<p>いました。</p>
<p>(福原教育長) ありがとうございます。</p>
<p>齋藤委員、いかがでしたか。</p>
<p>(齋藤委員) 今日お邪魔させていただいて、実際の授業と学校の雰囲気を見させて</p>
<p>いただき、まだこの場でこれがいいというふうに自分の中で意見はまとまっていま</p>
<p>せん。今高橋委員がおっしゃっていたように、勇払の独自のコミュニティの在り方や、</p>
<p>これまで続いていた伝統を守りたいという思いがある一方で、複式学級を見させて</p>
<p>いただきましたが、やはりなかなか難しい印象を受けました。先生方も精いっぱい頑</p>
<p>張っており、子供たちも一生懸命授業を受けていましたが、特に高学年の授業では、</p>
<p>5年生、6年生が、ちょうど同じような範囲のことを一緒にやっていて、勉強が難し</p>
<p>くなっていく中で、数学などについては分けていらっしゃるというお話でしたが、校</p>
<p>長先生、教頭先生のお話にもありましたように、先生が二つの学年の授業の準備をし</p>
<p>て、二つの学年の授業をしていかなければならないのは、子供たちにとっても、なか</p>
<p>かなか難しいと感じました。なので、今後どの方向に進んでいくべきか、授業を見</p>
<p>たことを通して、また自分なりに考えてみたいと思っています。</p>
<p>(福原教育長) ありがとうございます。</p>
<p>それでは、高橋委員お願いします。</p>
<p>(高橋委員) 今日、初めて現在の小学校の様子を見させていただきましたが、植</p>
<p>苗地区の小学校と、ほかの人口が少ないところの小学校とでは何となく違うイメージ</p>
<p>を持ちました。恐らく、もともと大きかった学校が小さくなっていて、あのような状</p>
<p>態になっていったと思います。ここのグラフにもあるとおり、6年後に植苗地区ぐら</p>
<p>いの小ささになってしまうといったときに、今のコミュニティスクールの在り方もそ</p>
<p>うですが、地域の人たちが小学校、中学校という学校を、いろいろな関わりの中で盛</p>
<p>り立てていこうというところに、まだ至っていないような気が何となく実はしていま</p>
<p>した。子供たち自体は、校長先生がおっしゃったように、すごく素朴な子供が多い</p>

<p>という印象も受けましたし、子供の問題というよりは、やはり学校の在り方と地域の在り方を今後、そこに携わる方々、全ての方々に、学校をもっともっと表面的な、感覚や、感情論などではなくて、あるべき姿というのをしっかりと協議をして決めていく必要があるのかなと僕の印象として持ちました。</p>
<p>(福原教育長) 学校運営協議会の先行地域として、コミュニティスクールでの地域の考えや、意見などはどのようなものがでてきていますか。</p>
<p>(教育部斎藤次長) コミュニティスクールを始めてから、もう4年、5年がたちます。実際に、小学校と中学校が合同で、地域に関わりを持ちながらいろいろな取組をしていただいています。それに関しては、もともとやっていたこととそんなに大きく変わったわけではないですが、一層活発になったということで地域の方も大変喜んでおります。ただ、地域の方は喜んでいますが、やはり高橋委員が言っていたように、学校を支えるというよりは、子供たちが地域に力を貸しているというような印象のほうが強かったかなという印象はあります。</p>
<p>(福原教育長) 私も岡田委員や斎藤委員がおっしゃっていたように、少し表現が難しいですが、勇払はやはり苫小牧のスタートの地点という印象があり、他とはまた違った地域の考え方があって、今後もまた保護者アンケート等を通して保護者の意向を確認されると思いますが、やはり地域とも話す必要があるのではないかと思います。保護者だけに限らず、こういった方向がいいのか、どんな作業が必要になってくるのか、アンケートの回答率はまだ3割程度ですが、やはり保護者と地域の考えを十分聞き、こちらとしての考えも示しながら、丁寧に慎重にやっていく必要はあるかなというのが感想です。私からは以上ですが、何かございませんか。</p>
<p>(一同「なし」の声)</p>
<p>(福原教育長) それでは、協議第1号の質疑を終結いたします。</p>

報告（２）教職員の処分について

（福原教育長） 次に、報告第２号についてですが、人事案件でございますので、教育委員会会議規則第２１条の規定により秘密会とし、本会議の日程の最後に審議したいと思います。よろしいでしょうか。

（一同「はい」の声）

（福原教育長） それでは、報告第２号を秘密会とし、本会議の日程の最後に審議することに決定いたしました。

協議（１）地域学校協働活動の推進について

（福原教育長） 教育委員の皆さまには、８月２３日に室蘭市で行われた北海道都市教育委員会連絡協議会 定期総会に参加していただきましたが、その分散会で「地域学校協働活動の推進について」をテーマに各市の取組や課題について意見交換をしていただきました。各グループでどのような意見が交わされたか、その感想などご発言いただきたいと思っております。それでは佐藤委員からお願いします。

（佐藤委員） 私はＡグループの中に入りまして、札幌と小規模なまちと苫小牧の全部で８団体、８市からの報告だったと思っておりますが、基本的に共通していたのは、人が少なくなってきた、何をするにも合同で行わなければいけないことに対する心配、長所と短所があるものの、先を考えると、指導者の問題や、それから学校と地域を考えた場合に、関わる人の考え方によって随分変わってくるものがあげられました。

私からは、苫小牧の場合の事例を紹介いたしまして、意見交換をしましたが、やは

り人口の少ないところはそういった心配をすることは無いというようなこともあり、
特に学校と一緒にやっていくクラブや、学習指導なども含めて、人の多いところの充実と少ないところの不安というのは共通してあったように思いました。
(福原教育長) ありがとうございます。
それでは、岡田委員、いかがでしたか。
(岡田委員) 学校の子供たちの取組の中に、地域の力をどう取り入れて生かしているか、私のグループからも意見がありまして、なかなか小規模のところでは難しい現状がありました。私からは、苫小牧市の企業に参加していただいて、子供たちにいろいろな職業体験を実際にしていただいていることを説明し、地域の社会性を生かして、子供たちにもそれを教育していくことへの、たくさんの意見、質問をいただきました。今後もこういった地域の企業参加というところで協力していただいて、子供たちに、そういう社会性を体得していただくということが大事かなというふうに思いました。
(福原教育長) それでは、齋藤委員お願いします。
(齋藤委員) 私の分散会では、事例発表を行った富良野市の教育長さんとご一緒したので、各市の発表をした後に、その事例発表の際に聞けなかったことの質問会のようにになりました。そのときに、富良野の教育長さんがおっしゃっていたことが、とても素晴らしく、学校教育と社会教育の一体化について、社会教育と学校教育を分かれて考えがちだが、お互いに取り組みながら、授業の中で地域活動を学ぶ場を多く持つように心がけているというお話でした。
あとは岡田委員もおっしゃっていた苫小牧での小学生の職業体験授業のことをお話ししたら、どのまちの委員さんからもとても羨ましい、さすが苫小牧、これだけ企業があるからできることで、すばらしいというふうにお褒めの言葉をいただきました。
しかし、小さいまちだからこそスムーズにできることもあって、大きいまちだからこそなかなかできないこともあるかと思いますが、それぞれの市のいいところを聞きながら、本市でもできることは少しでも近づけたらいいなと思い、考えておりました。
(福原教育長) ありがとうございます。

<p>それでは、高橋委員お願いします。</p>
<p>(高橋委員) 今回、2回目の参加をさせていただき、議題として取り上げられていたのが地域学校協働活動ということで、今まで皆さんがおっしゃったような形で、それぞれの地域で取り組まれている活動と聞いておりましたが、もともと僕のイメージとしてあった地域学校協働活動は、学校自体、そこに通われている子供たちが地域に様々な形で参画をして、郷土を学ぶとともに、地域のリーダーとして、地域愛を持つ人として成長する、もしくはそういう形の中で様々なものを協働して何かをつくり、生み出していく力を育むものだというふうな認識を持っていたので、どちらかが一方的にとはいませんが、何かを行政側が用意したり、NPOや民間の人たちが何かを用意して与えたりするものではなく、子供たち自身が何かをつくっていくというのが非常に必要なイメージを持っていましたが、なかなかそういうところまでは今の段階では進んでいないのだなという感想を、まず一つ持ちました。先ほどお話をしていた勇払地区のこともそうですが、一番大事なことは先ほど言った地域社会の方々とともに、やはり子供たち自身がそこに関して自発的に、感情や感覚みたいなものを持って、地域愛を育んでいくということを中心に据えたシステムや取組が、今後活性化し、発達していけばいいなと感じました。</p>
<p>(佐藤委員) 追加でお話ししたいのですが、Aグループで、結局人手不足解消案の中に、町内会活動という意見が随分出たのですが、広がりのあるところに住んでいる方も、札幌のように密度の高いところに住んでいる方も、共通意識としては町内会の活動がもう少ししっかりできるといいのではないかという意見が出ていました。高齢化の問題が現実にあったので、若手の中学生や高校生などに家族と一緒に町内会活動に入ってもらうにしても、引き継ぐ高齢者の問題がかえって出てくるので、難しくなるのではないかというような話も出ていました。追加でございます。</p>
<p>(福原教育長) 私のグループは、私が進行役でしたので、先にご意見を伺うところから始まったのですが、大体皆さんがおっしゃっていることと同じような意見でした。私からいきなり冒頭で皆さんにとって地域はなんですかと聞くと、ほとんど全員が</p>

答えを持っていませんでした。面白かったのが、私のグループは7人の教育委員さんがいましたが、そのうち3名が元学校の先生でした。

今佐藤委員からもあったように、町内会というくくりも一つの地域になりますから、まちの規模によっては、苫小牧についても一つの学校に幾つかの町内会があったり、一つの町内会で二つの学校にまたがっていたりというところがあると思います。帯広の方もいらっしゃいましたが、私らと同じ感覚で、みんな簡単に地域と言いますが、皆さんにとっての地域はなんですかと聞くと、ほとんど皆さん答えが出なくて面白かったなというのが一つありました。

私の地域というのは、そういった地域をこの時点で変に決めないで、順番に動くべきだという意見と、冒頭にお話がありましたが、例えば、キッズタウンをやるにしても、苫小牧全体の中から民間の企業さんの協力があって成り立っていて、これだけ継続しているということは、これも一つの地域だと思います。だから、地域という感覚を私もしっかりした答えを持っているわけではありませんが、その時々、のやろうとしていることのエリアやくくりで考える必要があると思います。

勇払は一つの地域だと思いますので、その時々、例えばキッズタウンが一番いい例なのですが、北洋大学でやっても、市全域から子供たちが集まります。それを地域の協働の活動としてくるか、これもまた一つの考え方かと思いますが、そういった中で子供にとって何がベストであるかが重要であるということで、その会を閉めました。

以上でございます。

質疑に付します。何かございませんか。

(一同「なし」の声)

(福原教育長) ないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(福原教育長) これより、先ほど秘密会と決定しました議案第3号及び報告第2号について審議をいたします。関係者以外は退席をお願いいたします。

(福原教育長) それでは、委員会を再開いたします。なお、議案第3号及び報告第2号につきましては、報告どおり終結したことを申し添えます。

#### 7 その他

(福原教育長) 次に、その他でございますが、事務局、委員の皆様を含めて、何かございますか。

(佐藤委員) 一言ご挨拶をさせていただきます。

思いがけずに継続のお話を頂戴いたしまして、昨日、任用の交付式を無事に済ませました。頑張らなければいけないなという気持ちが強くなっているところです。

とても長い間、教育委員の仕事をお手伝いさせていただいているので、今まであったことを振り返りながら、今教育だとか、教育委員会で変化しているところにつながるようなことがあれば、それを見つけて、何らかの形で反映していきたいなと思っております。

昨日から、身を引き締めておりまして、まだこれから4年ということでございますので、いろいろとお世話になろうかと思っております。

どうぞよろしくをお願いいたします。

(福原教育長) それではほかにございませんか。

(一同「なし」の声)

8 委員会閉会の宣言 (福原教育長) . . . 1 3 時 5 5 分